

## 大阪の地から「バクバク」を

「バクバクの会～人工呼吸器とともに生きる」会報『バクバク』No.124、2018年8月に寄稿した。写真下のリレーメッセージである。これを読んでいただくと、私と「バクバクの会」との関わり、「バクバク」への思いをお伝えできないのではないかと、拙文を紹介することにした。

昨年6月24日の「風よ吹け！未来はここに！！」上映会&講演会の思い出、林京香さんとの出会い、そして大阪への引っ越しから話をはじめた。

大阪暮らしのなか、「リバティおおさか」で3月に開催された前川喜平さん講演会、そのあと見た展示コーナーでの感動へと話をすすめた。展示パネルのなかに「人工呼吸器をつけて生きる」が、なかでも1989年の『バクバク』創刊号の表紙に掲載された、バクバクっ子の写真に目がとまった。

この「リバティおおさか」が、大阪の「政治」の動きに翻弄され、存廃の危機にある。差別や人権などの運動は、前進してきたが、それを後退させる動きも目立つ。大阪の地から「バクバク」を見つめていきたい、というメッセージで締めくくった。「バクバク」の皆さんに、こころが届いたでしょうか。

写真では見えないので、原稿を下記に添付しておきたい。



(2018年8月8日)

昨年6月24日、名古屋市立大学「さくら講堂」で開催した「風よ吹け！未来はここに！！」上映会&講演会のことが忘れられない。大学との連携による2回目の企画であり、学生さんも朝早くから大奮闘してくれた。私も前年「みんなの学校」上映会に続いて、スタッフとして加わった。『バクバク』120号に、私が「愛知会場報告」を書いている。表紙の写真にも、Vサインの私がちゃんと映っている。

あれは私が名古屋市立大学を退職する5ヶ月前のことだ。卒業生から林京香さん一家を紹介され、大学の講義で話していただいた。秋の大学祭、そして春の「最終講義」にも参加してもらった。はじめての人工呼吸器ユーザーとの「出会い」であり、その後の生き方、教育研究に大きな刺激をあたえてくれた。

地域の小学校に元気に通う京香さん。できるだけ学校生活に接しようと、運動会や学芸会、授業参観などに参加して、レポートなどに書いてきた。京香さんの居場所を確認でき、級友とも親しくなった。もっと早く、京香さんに出会えていればと思ったものだ。

私は昨年末、大阪に引っ越した。京香さん一家との「別れ」がなんとも辛かったが。かつて大阪市立大学で学び、名古屋に就職したので、38年ぶりの大阪暮らしである。

久しぶりの大阪に戸惑うことも多いが、いろんな所に足を運ぶことにした。3月末に、「リバティおおさか」で開かれた前川喜平さんの講演会に行った。前川さんの講演だけでなく、そのあと見た展示コーナーにも感激した。

ここに来たのは2回目である。1回目のときは気づかなかったが、展示コーナーに入ると、すぐ「人工呼吸器をつけて生きる」のパネルが並んでいた。はじめて見る写真も多かった。1989年の「バクバク」創刊号表紙に、淀川キリスト教病院のバクバクっ子が映っている。新しくなった淀キリ病院には、自宅からも近いので自転車でいったことがある。

リバティおおさかの愛称で親しまれている「大阪人権博物館」は1985年12月、大阪市浪速区の地でオープンした。統一テーマは「自由と大阪—その歴史と文化をたずねて」であった。差別と人権問題をテーマに掲げ、新しい人権確立の動きに応える博物館をめざした。この人権博物館が大阪の「政治」の動きに翻弄され、まさに存廃の危機にある。現在、大阪市と係争中であり、こんな酷い動き、裁判を注視していきたい。

差別や人権、インクルーシブ教育などは、ねばり強い運動で前進してきたが、それを後退させる動きも目立つ。そんな中で、バクバクの会が第3回「糸賀一雄記念未来賞」を受賞したことを知った。「障害福祉の父」糸賀一雄氏が残した言葉、「この子らを世の光に」をここに刻んできた。林京香さんらバクバクっ子を「世の光に」、障害福祉に関心を持ち続けたい。

9月15～16日には「障害児の高校進学を実現する全国交流集会」が愛知県刈谷市で開催される。多くの人の参加を期待したい。

